



私には将来、保育士になるという夢がある。昔から小さい子供が大好きで、お世話をしたり、一緒に遊んだりする事で笑顔になってくれるのがとても嬉しいと感じていたからだ。そんな私がニュースを見ていて、心がはりさけそうになる時がある。それは幼い子供が事件に巻き込まれたり、親からの虐待を受けて命を落とすというニュースを目にした時だ。

最近のニュースの中で、一番私の心に残っている事件がある。今年の三月に東京都で起きた事件だ。五歳の女の子が親から十分な食事も与えられず、日常的に暴力を振るわれて亡くなるという悲しい事件だ。私はその事件を知った時、何故可愛いはずの我が子に苦しい思いをさせ、命まで奪ってしまったのか理解ができなかった。この女の子は日常の苦しみに耐えながら「お父さん、お母さん許してほしい。」とノートにつづっていたようだ。自分の五歳の時から考えられないほどの出来事だ。子供を育てられない環境ならば産まなければいいと思う。産まれてくる子供は親を選べない。児童相談所や身近な大人も気付いてあげられなかったのだろうか。そんなたくさん疑問が私の心に残った。

事件になるからニュースになり、知る事ができるがそれ以外にも日常的に虐待を受けて苦しんでいる子供は年々増加しているという。とても辛い事だが、それ以上に驚きなのが、幼児虐待で命を落とす一番多い年齢は0歳0カ月だそうだ。なんて無責任な人が多いのだろうかと怒りがこみ上げてくる。小さな尊い命をもっと大切にする為に国や自治体の取り組みが進んでいる。中でも、「オレンジリボン運動」という全国で活動をしている法人がある。オレンジリボン運動とは子供に対して虐待のない社会の実現を目指す市民運動である。私はその活動に感心を持ち、調べることにした。

結果、子供の虐待は「身体的虐待」「心理的虐待」「ネグレクト」「性的虐待」の四つに分けられることがわかった。

私はその種類や具体例を見て驚いた。統計データを見ても、命を落とす事例が年間五十件を越え、一週間に一人の子供が命を落している。

虐待を受けた子供達は乳児院や児童養護施設に保護され育てられるそうだが、心に大きな傷を負っている為育て直しや長期間の応援が必要である。親から愛情を受けていない為、愛着障害が起るといわれている。子供の心のケアをする為には、親の代わりとなる大人が信頼関係をつくり上げる事が大事になるそうだ。またその子供が大人になり、結婚、子育てまで継続して支える必要がある。

私は大人になって、オレンジリボン運動に参加したいと思った。夢でもある保育士という立場から、一人でも多くの子供達を笑顔にし、小さな尊い命を守りたいと強く思った。